

【概要】

平成28年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（北海道）【確定値】

※ 本調査は、平成28年度間の北海道の公立学校における暴力行為、いじめ、不登校、中途退学の状態を平成29年度に調査し、公表するものです。また、本数値には、札幌市立学校も含まれています。

■基本となる学校数及び児童生徒数

	公立学校総数			在籍児童生徒数		
	平成27年度	平成28年度	前年度比	平成27年度	平成28年度	前年度比
小学校	1,099 校	1,069 校	▲ 30 校	250,667 人	246,491 人	▲ 4,176 人
中学校	614 校	605 校	▲ 9 校	131,908 人	130,677 人	▲ 1,231 人
高等学校	237 校	235 校	▲ 2 校	105,520 人	102,823 人	▲ 2,697 人
小・中・高等学校の計	1,950 校	1,909 校	▲ 41 校	488,095 人	479,991 人	▲ 8,104 人
特別支援学校	64 校	68 校	4 校	5,417 人	5,550 人	133 人
合計	2,014 校	1,977 校	▲ 37 校	493,512 人	485,541 人	▲ 7,971 人

※平成28年5月1日現在の数値である。

ただし、高等学校在籍児童生徒数には、高等学校通信制課程の在籍者数(27年度は3,505人、28年度は3,218人)も計上されている。

※いじめにおける高等学校の学校総数は、併置校を全日制、定時制、通信制それぞれを1校で計上し、269校となる。

■結果の概要

1 公立小・中学校、高等学校の暴力行為の発生件数

	平成27年度		平成28年度		前年度比	
	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数
小学校	432 件	1.7	372 件	1.5	▲ 60 件	▲ 0.2
中学校	546 件	4.1	424 件	3.2	▲122 件	▲ 0.9
高等学校	191 件	1.8	186 件	1.8	▲ 5 件	▲ 0.0
合計	1,169 件	2.4	982 件	2.0	▲187 件	▲ 0.4

2 公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめの認知件数

	平成27年度		平成28年度		前年度比	
	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数
小学校	3,486 件	13.9	5,185 件	21.0	1,699 件	7.1
中学校	1,588 件	12.0	1,899 件	14.5	311 件	2.5
高等学校	429 件	4.1	456 件	4.4	27 件	0.4
特別支援学校	34 件	6.3	22 件	4.0	▲ 12 件	▲ 2.3
合計	5,537 件	11.2	7,562 件	15.6	2,025 件	4.4

3 公立小・中学校の不登校児童生徒数

	平成27年度		平成28年度		前年度比	
	不登校児童生徒数	1,000人当たり	不登校児童生徒数	1,000人当たり	不登校児童生徒数	1,000人当たり
小学校	942 人	3.8	1,031 人	4.2	89 人	0.4
中学校	3,653 人	27.7	3,964 人	30.3	311 人	2.6
合計	4,595 人	12.0	4,995 人	13.2	400 人	1.2

4 公立高等学校の不登校生徒数（通信制高校の在籍者を除く。）

	平成27年度	平成28年度	前年度比
不登校生徒数	707 人	754 人	47 人
1,000人当たり	6.9	7.6	0.7

5 公立高等学校の中途退学者数

	平成27年度	平成28年度	前年度比
中途退学者数	1,648 人	1,534 人	▲ 114 人
中途退学率	1.6 %	1.5 %	▲ 0.1

公立小・中学校、高等学校の暴力行為

○平成25年度から、「暴力行為」については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

1 暴力行為の発生件数の推移

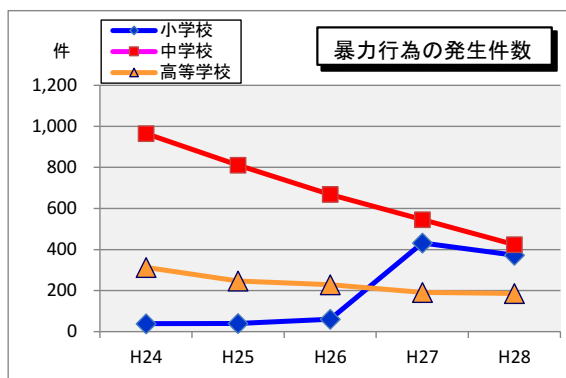
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
小学校	39	40	60	432	372
中学校	965	811	668	546	424
高等学校	313	247	228	191	186
計	1,317	1,098	956	1,169	982

＜経年変化＞

中学校及び高等学校においては、平成24年度から減少傾向にある。小学校においては平成27年度に急増したが、今年度は減少した。

＜前年度との比較＞

- 小学校 ～前年度に比べ、60件減少している。
- 中学校 ～前年度に比べ、122件減少している。
- 高等学校～前年度に比べ、5件減少している。
- 全体 ～前年度に比べ、187件減少している。



【暴力行為の定義】「暴力行為」を「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」として調査。本調査においては、「当該暴力行為によってけががあるかないかといったことや、けがによる病院の診断書、被害者による警察への被害届の有無などにかかわらず」、暴力行為に該当するものを全て対象とすることとしている。

2 学校種別暴力行為の発生学校数及び発生件数

		平成28年度			平成27年度		
		発生学校数		発生件数	発生学校数		発生件数
		学校数	発生率		学校数	発生率	
小学校	学校管理下	36校	3.4%	354件	27校	2.5%	236件
	学校管理下以外	11校	1.0%	18件	14校	1.3%	196件
	小計	—	—	372件	—	—	432件
中学校	学校管理下	107校	17.7%	404件	91校	14.8%	498件
	学校管理下以外	16校	2.6%	20件	29校	4.7%	48件
	小計	—	—	424件	—	—	546件
高等学校	学校管理下	69校	29.4%	167件	83校	35.0%	171件
	学校管理下以外	16校	6.8%	19件	14校	5.9%	20件
	小計	—	—	186件	—	—	191件
合計	学校管理下	212校	11.1%	925件	201校	10.3%	905件
	学校管理下以外	43校	2.3%	57件	57校	2.9%	264件
	小計	—	—	982件	—	—	1,169件

※発生率＝（発生学校数／公立学校総数）×100

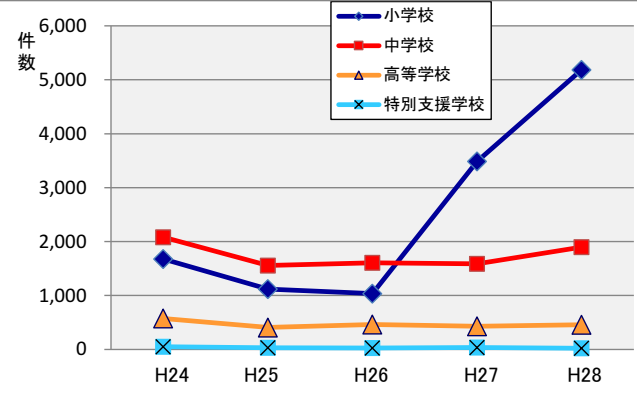
3 暴力行為の種別発生学校数及び発生件数

		平成28年度		平成27年度	
		発生学校数	発生件数	発生学校数	発生件数
対教師暴力	小学校	20校	150件	13校	74件
	中学校	29校	41件	30校	96件
	高等学校	17校	26件	19校	24件
	合計	66校	217件	62校	194件
生徒間暴力	小学校	27校	119件	28校	216件
	中学校	89校	265件	103校	317件
	高等学校	73校	126件	78校	130件
	合計	189校	510件	209校	663件
対人暴力	小学校	5校	5件	4校	76件
	中学校	7校	9件	11校	20件
	高等学校	4校	4件	2校	2件
	合計	16校	18件	17校	98件
器物損壊	小学校	16校	98件	8校	66件
	中学校	43校	109件	27校	113件
	高等学校	20校	30件	25校	35件
	合計	79校	237件	60校	214件

公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめ

○平成25年度から、「いじめ」については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

1 いじめの認知件数の推移



※本調査におけるいじめの定義

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。

これらについては、教育的な配慮や被害者の意向への配慮の上で、早期に警察に相談・通報し、警察と連携した対応を取ることが必要である。

<経年変化>

いじめの認知件数は、平成27年度から大幅に増加している。校種別では、小学校の増加が顕著であるが、中学校・高等学校についても前年度に比べ増加した。

<前年度との比較>

- 小学校 ~前年度に比べ、1699件増加している。
- 中学校 ~前年度に比べ、311件増加している。
- 高等学校 ~前年度に比べ、27件増加している。
- 特別支援学校 ~前年度に比べ、12件減少している。
- 全体 ~前年度に比べ、2025件増加している。

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
小学校	1,676 6.4	1,119 4.3	1,036 4.1	3,486 13.9	5,185 21.0
中学校	2,082 15.2	1,557 11.6	1,607 12.1	1,588 12.0	1,899 14.5
高等学校	574 5.3	409 3.7	464 4.3	429 4.1	456 4.4
特別支援学校	51 10.0	33 6.4	25 4.8	34 6.3	22 4.0
計	4,383 8.5	3,118 6.1	3,132 6.2	5,537 11.2	7,562 15.6

※ 上段は認知件数、下段は1,000人当たりの認知件数

2 学校種別いじめの認知学校数

	認知学校数			
	学校数		認知率	
	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度
小学校	439校	355校	41.1%	32.4%
中学校	314校	307校	51.9%	50.0%
高等学校	138校	138校	51.3%	50.9%
特別支援学校	9校	18校	13.2%	28.1%

※ 認知率＝（認知学校数／公立学校総数）×100

3 いじめの解消状況

	いじめが解消しているもの(解消率)	
	平成28年度	平成27年度
小学校	97.8%	97.0%
中学校	96.9%	96.0%
高等学校	98.7%	99.8%
特別支援学校	100.0%	97.1%
計	97.7%	96.9%

4 いじめ発見のきっかけ (12項目から一つの項目)

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成28年度		平成27年度	
		項目	割合	項目	割合
小学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	68.1%	アンケート調査など学校の取組により発見	65.7%
	②	本人からの訴え	18.1%	本人からの訴え	22.0%
	③	学級担任が発見	6.5%	学級担任が発見	5.2%
	④	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	4.7%	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	4.4%
	⑤	児童生徒(本人を除く)からの情報	1.0%	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	1.2%
	⑥	学級担任以外の教職員が発見	0.6%	児童生徒(本人を除く)からの情報	0.8%
	⑦	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	0.6%	学級担任以外の教職員が発見	0.3%
	⑧	義護教諭が発見	0.1%	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.2%
	⑨	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.1%	義護教諭が発見	0.1%
	⑩	地域の住民からの情報	0.1%	地域の住民からの情報	0.03%
	⑪	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	その他(匿名による投書など)	0.03%
	⑫	その他(匿名による投書など)	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
中学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	52.8%	アンケート調査など学校の取組により発見	56.6%
	②	本人からの訴え	25.9%	本人からの訴え	19.5%
	③	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	8.3%	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	9.9%
	④	学級担任が発見	7.3%	学級担任が発見	8.0%
	⑤	児童生徒(本人を除く)からの情報	2.4%	児童生徒(本人を除く)からの情報	1.8%
	⑥	学級担任以外の教職員が発見	1.6%	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	1.8%
	⑦	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	0.7%	学級担任以外の教職員が発見	1.6%
	⑧	義護教諭が発見	0.4%	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.3%
	⑨	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.4%	義護教諭が発見	0.3%
	⑩	その他(匿名による投書など)	0.1%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.1%
	⑪	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.1%	地域の住民からの情報	0.1%
	⑫	地域の住民からの情報	0.1%	その他(匿名による投書など)	0.0%

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成28年度		平成27年度	
高等学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	68.4%	アンケート調査など学校の取組により発見	69.2%
	②	本人からの訴え	15.8%	本人からの訴え	17.5%
	③	児童生徒（本人を除く）からの情報	5.5%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	4.9%
	④	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	3.9%	学級担任が発見	2.6%
	⑤	学級担任が発見	3.1%	学級担任以外の教職員が発見	2.6%
	⑥	学級担任以外の教職員が発見	1.8%	児童生徒（本人を除く）からの情報	1.9%
	⑦	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.9%	養護教諭が発見	0.7%
	⑧	養護教諭が発見	0.7%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.5%
	⑨	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%
	⑩	地域の住民からの情報	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
特別支援学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	59.1%	アンケート調査など学校の取組により発見	52.9%
	②	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	13.6%	本人からの訴え	20.6%
	③	学級担任以外の教職員が発見	9.1%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	11.8%
	④	本人からの訴え	9.1%	学級担任以外の教職員が発見	5.9%
	⑤	学級担任が発見	4.5%	児童生徒（本人を除く）からの情報	5.9%
	⑥	児童生徒（本人を除く）からの情報	4.5%	学級担任が発見	2.9%
	⑦	養護教諭が発見	0.0%	養護教諭が発見	0.0%
	⑧	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
	⑨	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%
	⑩	地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%

5 いじめの態様（9項目から複数選択）

	順位	いじめの態様			
		平成28年度		平成27年度	
小学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	64.0%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	65.7%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	29.1%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	28.3%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	20.8%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	23.6%
	④	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	6.8%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	9.8%
	⑤	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	3.8%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	7.7%
	⑥	その他	3.7%	その他	4.1%
	⑦	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.5%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.9%
	⑧	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	1.3%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	0.8%
	⑨	金品をたかられる。	0.2%	金品をたかられる。	0.03%
中学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	72.6%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	77.9%
	②	仲間はずれ、集団による無視をされる。	19.2%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	17.1%
	③	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	15.5%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	15.0%
	④	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	9.6%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	8.3%
	⑤	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	6.7%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	5.4%
	⑥	その他	2.8%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	4.0%
	⑦	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.7%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.5%
	⑧	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.4%	その他	1.6%
	⑨	金品をたかられる。	0.3%	金品をたかられる。	0.3%
高等学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	68.6%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	70.9%
	②	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	18.4%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	21.4%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	16.2%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	16.3%
	④	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	10.1%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	10.5%
	⑤	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	6.6%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	7.7%
	⑥	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	4.6%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	5.1%
	⑦	その他	3.9%	その他	4.4%
	⑧	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	3.3%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.8%
	⑨	金品をたかられる。	1.3%	金品をたかられる。	0.7%
特別支援学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	45.5%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	64.7%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	27.3%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	29.4%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	13.6%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	8.8%
	④	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	13.6%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	8.8%
	⑤	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	9.1%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	5.9%
	⑥	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	9.1%	その他	5.9%
	⑦	その他	4.5%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.9%
	⑧	金品をたかられる。	0.0%	金品をたかられる。	2.9%
	⑨	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	0.0%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	0.0%

公立小・中学校の不登校

1 公立小・中学校における理由別長期欠席者数（上段）と1,000人当たりの理由別長期欠席者数（下段）

	平成28年度						平成27年度					
	不登校	うち90日以上欠席	経済的理由	病気	その他	計	不登校	うち90日以上欠席	経済的理由	病気	その他	計
小学校	1,031	626	0	635	463	2,129	942	543	0	865	467	2,274
1,000人当たり	4.2	2.5	0.0	2.6	1.9	8.6	3.8	2.2	0.0	3.5	1.9	9.1
中学校	3,964	2,778	0	724	401	5,089	3,653	2,472	0	795	193	4,641
1,000人当たり	30.3	21.3	0.0	5.5	3.1	38.9	27.7	18.7	0.0	6.0	1.5	35.2
計	4,995	3,405	0	1,359	864	7,218	4,595	3,015	0	1,660	660	6,915
1,000人当たり	13.2	9.0	0.0	3.6	2.3	19.1	12.0	7.9	0.0	4.3	1.7	18.1

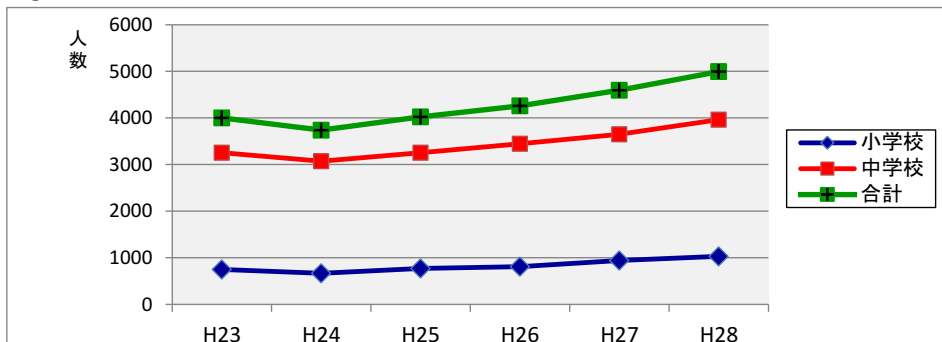
※年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒数を理由別に調査。

- 小学校 ~昨年度に比べ、89人増加（942→1,031）している。
- 中学校 ~昨年度に比べ、311人増加（3,653→3,964）している。
- 全体 ~昨年度に比べ、400人増加（4,595→4,995）している。

2 不登校の経年変化

(1) 不登校の状況

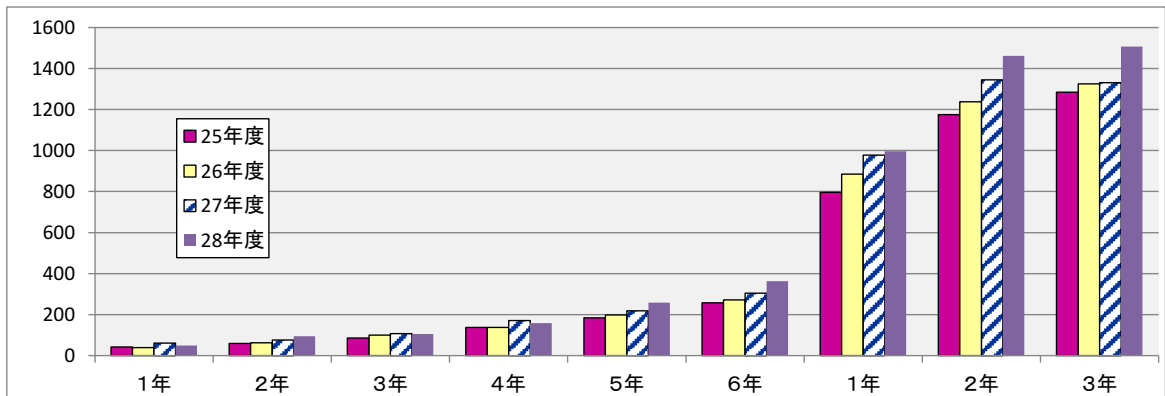
① 年度間に通算30日以上欠席した児童生徒のうち、不登校を理由とする児童生徒数の推移



② 不登校児童生徒数（上段）と1,000人当たりの不登校児童生徒数（下段）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
小学校	747	667	770	812	942	1,031
1,000人当たり	2.8	2.5	3.0	3.2	3.8	4.2
中学校	3,254	3,073	3,255	3,447	3,653	3,964
1,000人当たり	23.3	22.4	24.2	26.0	27.7	30.3
合計	4,001	3,740	4,025	4,259	4,595	4,995
1,000人当たり	9.8	9.3	10.2	11.0	12.0	13.2

(2) 過去4年間の学年別不登校児童生徒数の推移



学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
25年度	43	60	86	138	185	258	796	1,175	1,284
26年度	40	63	101	138	198	272	885	1,238	1,324
27年度	61	77	108	172	219	305	978	1,344	1,331
28年度	50	95	106	159	258	363	996	1,461	1,507

3 不登校の要因

(1) 公立小学校

分類	区分	(a) 分類別 児童数	学校に係る状況							家庭に係る状況	左記に該当なし	
			いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除 め く	題係教 を職 員 ぐ と の 問 関	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 ク ラ ブ 活 動 等 活 動 の	題等学 を校 の ぐ き ま 問 り			不学入 適進 応進 級転 編の 入
			「学校における人間関係」に課題を抱えている。	125	0 0.0%	73 58.4%	29 23.2%	17 13.6%	2 1.6%			1 0.8%
	12.1%	—	40.8%	47.5%	9.8%	16.7%	25.0%	18.5%	10.6%	6.8%	2.5%	
「あそび・非行」の傾向がある。	9	0 0.0%	2 22.2%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	1 11.1%	6 66.7%	1 11.1%	
		0.9%	—	1.1%	3.3%	1.1%	0.0%	0.0%	11.1%	2.1%	1.1%	0.4%
「無気力」の傾向がある。	320	0 0.0%	19 5.9%	11 3.4%	78 24.4%	2 0.6%	1 0.3%	7 2.2%	11 3.4%	221 69.1%	57 17.8%	
		31.0%	—	10.6%	18.0%	44.8%	16.7%	25.0%	25.9%	23.4%	39.7%	23.8%
「不安」の傾向がある。	285	0 0.0%	78 27.4%	10 3.5%	62 21.8%	7 2.5%	2 0.7%	11 3.9%	21 7.4%	135 47.4%	56 19.6%	
		27.6%	—	43.6%	16.4%	35.6%	58.3%	50.0%	40.7%	44.7%	24.2%	23.3%
「その他」	292	0 0.0%	7 2.4%	9 3.1%	15 5.1%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%	9 3.1%	157 53.8%	120 41.1%	
		28.3%	—	3.9%	14.8%	8.6%	8.3%	0.0%	3.7%	19.1%	28.2%	50.0%
計(b)	1,031	0 100.0%	179 17.4%	61 5.9%	174 16.9%	12 1.2%	4 0.4%	27 2.6%	47 4.6%	557 54.0%	240 23.3%	

(注1) 「分類」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因を一つ選択。

(注2) 「区分」については、複数回答可。「分類」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、「左記に該当なし」を選択する。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における「分類別児童生徒数(a)」に対する割合。下段は、各区分における区分の「計(b)」に対する割合。

(2) 公立中学校

分類	区分	(a) 分類別 生徒数	学校に係る状況							家庭に係る状況	左記に該当なし	
			いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除 め く	題係教 を職 員 ぐ と の 問 関	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 ク ラ ブ 活 動 等 活 動 の	題等学 を校 の ぐ き ま 問 り			不学入 適進 応進 級転 編の 入
			「学校における人間関係」に課題を抱えている。	830	0 0.0%	588 70.8%	57 6.9%	93 11.2%	23 2.8%			47 5.7%
	20.9%	—	49.3%	52.3%	11.4%	11.9%	44.3%	22.2%	24.2%	11.2%	4.2%	
「あそび・非行」の傾向がある。	176	0 0.0%	37 21.0%	4 2.3%	50 28.4%	9 5.1%	3 1.7%	32 18.2%	11 6.3%	68 38.6%	37 21.0%	
		4.4%	—	3.1%	3.7%	6.1%	4.7%	2.8%	29.6%	3.0%	6.8%	3.5%
「無気力」の傾向がある。	1,064	0 0.0%	156 14.7%	17 1.6%	325 30.5%	55 5.2%	19 1.8%	29 2.7%	79 7.4%	343 32.2%	325 30.5%	
		26.8%	—	13.1%	15.6%	39.7%	28.5%	17.9%	26.9%	21.2%	34.2%	30.8%
「不安」の傾向がある。	1,126	0 0.0%	364 32.3%	20 1.8%	280 24.9%	94 8.3%	32 2.8%	14 1.2%	117 10.4%	222 19.7%	295 26.2%	
		28.4%	—	30.5%	18.3%	34.2%	48.7%	30.2%	13.0%	31.5%	22.1%	28.0%
「その他」	768	0 0.0%	47 6.1%	11 1.4%	71 9.2%	12 1.6%	5 0.7%	9 1.2%	75 9.8%	259 33.7%	354 46.1%	
		19.4%	—	3.9%	10.1%	8.7%	6.2%	4.7%	8.3%	20.2%	25.8%	33.6%
計(b)	3,964	0 100.0%	1,192 30.1%	109 2.7%	819 20.7%	193 4.9%	106 2.7%	108 2.7%	372 9.4%	1,004 25.3%	1,055 26.6%	

【割合の計算例】 中段: $\frac{354}{768} \times 100 = 46.1\%$

下段: $\frac{354}{1055} \times 100 = 33.6\%$

(3) 公立小・中学校合計

分類	区分	(a) 分類別 児童生徒数	学校に係る状況							家庭に係る状況	左記に該当なし	
			いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除 め く	題係教 を職 め員 ぐとの 問関	学業の不振	安進路に係る不	不部ク 適活ラ 応動等 への	題等学 を校の めぐき ま問り			不学、学 不適、学 進級転 編の入
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	955	0	661	86	110	25	48	29	95	150	50	
		0.0%	69.2%	9.0%	11.5%	2.6%	5.0%	3.0%	9.9%	15.7%	5.2%	
「あそび・非行」の傾向がある。	185	—	48.2%	50.6%	11.1%	12.2%	43.6%	21.5%	22.7%	9.6%	3.9%	
		0	39	6	52	9	3	35	12	74	38	
「無気力」の傾向がある。	1,384	0	175	28	403	57	20	36	90	564	382	
		—	12.6%	2.0%	29.1%	4.1%	1.4%	2.6%	6.5%	40.8%	27.6%	
「不安」の傾向がある。	1,411	0	442	30	342	101	34	25	138	357	351	
		0.0%	31.3%	2.1%	24.2%	7.2%	2.4%	1.8%	9.8%	25.3%	24.9%	
「その他」	1,060	—	32.2%	17.6%	34.4%	49.3%	30.9%	18.5%	32.9%	22.9%	27.1%	
		0	54	20	86	13	5	10	84	416	474	
計(b)	4,995	0	1,371	170	993	205	110	135	419	1,561	1,295	
		0.0%	27.4%	3.4%	19.9%	4.1%	2.2%	2.7%	8.4%	31.3%	25.9%	

4 不登校児童生徒への指導結果状況

	小学校				中学校				計			
	人数		不登校児童に対する比率		人数		不登校生徒に対する比率		人数		不登校児童生徒に対する比率	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	291	314	28.2%	33.3%	971	937	24.5%	25.7%	1,262	1,251	25.3%	27.2%
指導中の児童生徒	740	628	71.8%	66.7%	2,993	2,716	75.5%	74.3%	3,733	3,344	74.7%	72.8%
うち登校に至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	209	195	20.3%	20.7%	756	773	19.1%	21.2%	965	968	19.3%	21.1%
計	1,031	942			3,964	3,653			4,995	4,595		

公立高等学校の不登校

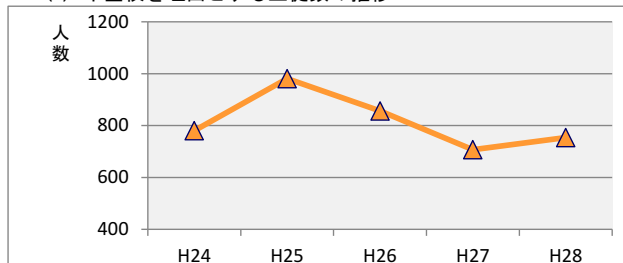
1 公立高等学校における理由別長期欠席者数（上段）と1,000人当たりの理由別長期欠席者数（下段）

年度	在籍数（人）	不登校	理由				計
			うち90日以上欠席	経済的理由	病気	その他	
平成28年度	99,605 (1,000人当たり)	754 7.6	293 2.9	10 0.1	271 2.7	112 1.1	1,147 11.5
平成27年度	102,015 (1,000人当たり)	707 6.9	203 2.0	9 0.1	202 2.0	121 1.2	1,039 10.2

※年間30日以上欠席した者

2 公立高等学校における不登校の状況

(1) 不登校を理由とする生徒数の推移



<前年度との比較>

○人数～前年度に比べ、47人増加している。
○1,000人当たり～前年度に比べ、0.7ポイント増加している。

【内訳】

全日制 335人（3.5）（前年度290人（3.0））
定時制 419人（99.8）（前年度417人（94.0））

(2) 不登校生徒数（上段）と1,000人当たりの不登校生徒数（下段）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
不登校生徒数	780	981	856	707	754
1,000人当たり	7.1	9.2	8.2	6.9	7.6

※年間30日以上欠席した者のうち、主たる理由が「不登校」の者の数

3 学年別不登校生徒数

	不登校生徒数					
	平成28年度			平成27年度		
	人数	1,000人当たり	構成比	人数	1,000人当たり	構成比
第1学年	147	5.7	19.5%	120	4.8	17.0%
第2学年	108	4.2	14.3%	84	3.3	11.9%
第3学年	63	2.4	8.4%	42	1.6	5.9%
第4学年	5	12.0	0.7%	6	12.9	0.8%
単位制	431	20.4	57.2%	455	18.2	64.4%

4 不登校の要因

(1) 全日制と定時制の合計

区分 分類	分類別 生徒数 (a)	学校に係る状況								家庭に係る 状況	左記に該当 なし
		いじめ	ぐ友い る人じ 問閉め 題係を を除め く	題係教 を職員 ぐとの 問閉	学業の 不振	安進 路に 係る 不	不部ク 適活ラ 応動ブ 等活動 への	題等学 を校の めぐき るま 問閉	不学入 適進 応進 級転 時編 の入		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	121	1	81	3	16	32	2	1	17	10	5
	16.0%	0.8%	66.9%	2.5%	13.2%	26.4%	1.7%	0.8%	14.0%	8.3%	4.1%
「あそび・非行」の傾向がある。	88	0	3	0	31	37	0	3	3	15	2
	11.7%	0.0%	3.4%	0.0%	35.2%	42.0%	0.0%	3.4%	3.4%	17.0%	2.3%
「無気力」の傾向がある。	227	0	11	1	83	35	2	2	28	56	34
	30.1%	0.0%	4.8%	0.4%	36.6%	15.4%	0.9%	0.9%	12.3%	24.7%	15.0%
「不安」の傾向がある。	167	0	50	0	36	35	1	1	24	25	25
	22.1%	0.0%	29.9%	0.0%	21.6%	21.0%	0.6%	0.6%	14.4%	15.0%	15.0%
「その他」	151	0	3	0	4	3	2	2	13	93	40
	20.0%	0.0%	2.0%	0.0%	2.6%	2.0%	1.3%	1.3%	8.6%	61.6%	26.5%
計(b)	754	1	148	4	170	142	7	9	85	199	106
	100.0%	0.1%	19.6%	0.5%	22.5%	18.8%	0.9%	1.2%	11.3%	26.4%	14.1%

(注1) 「分類」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因を一つ選択。

(注2) 「区分」については、複数回答可。「分類」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、「左記に該当なし」を選択する。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は「分類別児童生徒数(a)」に対する割合。下段は「計(b)」に対する割合。

(2) 全日制

区分 分類	分類別生徒数 (a)	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
		いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除め く	題係教 を職 員と るの 間関	学業 の 不振	安進 路に 係る 不	不部ク 適活ラ 応動プ 等活 動への	題等学 を校 をの めぐる ま 問り	不学入 適進 応進 級転 編の 入		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	69	1	54	1	6	4	2	1	9	10	4
	20.6%	1.4%	78.3%	1.4%	8.7%	5.8%	2.9%	1.4%	13.0%	14.5%	5.8%
「あそび・非行」の傾向がある。	15	0	3	0	4	1	0	3	1	9	0
	4.5%	0.0%	20.0%	0.0%	26.7%	6.7%	0.0%	20.0%	6.7%	60.0%	0.0%
「無気力」の傾向がある。	80	0	11	1	22	10	2	2	19	15	20
	23.9%	0.0%	13.8%	1.3%	27.5%	12.5%	2.5%	2.5%	23.8%	18.8%	25.0%
「不安」の傾向がある。	108	0	21	0	21	29	1	0	21	18	24
	32.2%	0.0%	19.4%	0.0%	19.4%	26.9%	0.9%	0.0%	19.4%	16.7%	22.2%
「その他」	63	0	3	0	3	3	2	2	12	16	31
	18.8%	0.0%	4.8%	0.0%	4.8%	4.8%	3.2%	3.2%	19.0%	25.4%	49.2%
計(b)	335	1	92	2	56	47	7	8	62	68	79
	100.0%	0.3%	27.5%	0.6%	16.7%	14.0%	2.1%	2.4%	18.5%	20.3%	23.6%

(2) 定時制

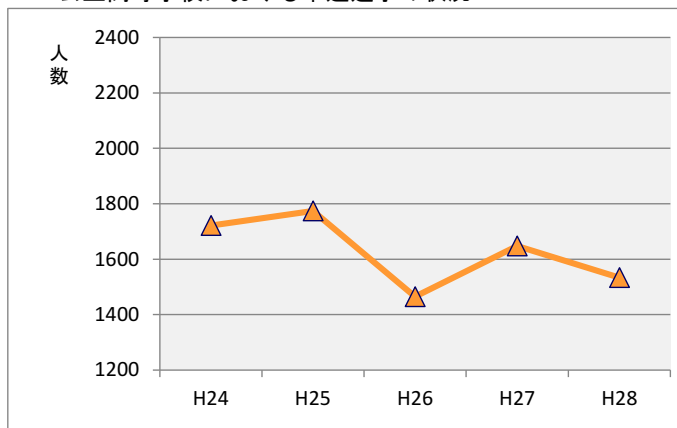
区分 分類	分類別生徒数 (a)	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
		いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除め く	題係教 を職 員と るの 間関	学業 の 不振	安進 路に 係る 不	不部ク 適活ラ 応動プ 等活 動への	題等学 を校 をの めぐる ま 問り	不学入 適進 応進 級転 編の 入		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	52	0	27	2	10	28	0	0	8	0	1
	12.4%	—	51.9%	3.8%	19.2%	53.8%	0.0%	0.0%	15.4%	0.0%	1.9%
「あそび・非行」の傾向がある。	73	0	0	0	27	36	0	0	2	6	2
	17.4%	—	0.0%	0.0%	37.0%	49.3%	0.0%	0.0%	2.7%	8.2%	2.7%
「無気力」の傾向がある。	147	0	0	0	61	25	0	0	9	41	14
	35.1%	—	0.0%	0.0%	41.5%	17.0%	0.0%	0.0%	6.1%	27.9%	9.5%
「不安」の傾向がある。	59	0	29	0	15	6	0	1	3	7	1
	14.1%	—	49.2%	0.0%	25.4%	10.2%	0.0%	1.7%	5.1%	11.9%	1.7%
「その他」	88	0	0	0	1	0	0	0	1	77	9
	21.0%	—	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	87.5%	10.2%
計(b)	419	0	56	2	114	95	0	1	23	131	27
	100.0%	0.0%	13.4%	0.5%	27.2%	22.7%	0.0%	0.2%	5.5%	31.3%	6.4%

【割合の計算例】 中段: $\frac{9}{88} \times 100 = 10.2\%$ 下段: $\frac{9}{27} \times 100 = 33.3\%$

公立高等学校の中途退学

○平成25年度から、「中途退学」については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

1 公立高等学校における中途退学の状況



<経年変化>

平成25年度は調査対象として通信制課程を追加したことから、中途退学者数は前年度に比べ増加した。平成26年度以降減少と増加を繰り返している。

<前年度との比較>

○人数 ~前年度に比べ、114人減少している。

○在籍比~前年度に比べ、0.1ポイント減少している。

【内訳】

全日制 750人（0.8%）（前年度 931人（1.0%））
 定時制 327人（8.4%）（前年度 382人（8.6%））
 通信制 457人（14.5%）（前年度 335人（10.8%））

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
中途退学者数	1,721	1,764	1,465	1,648	1,534
中途退学率	1.6%	1.6%	1.4%	1.6%	1.5%

2 学年別中途退学者数

	中途退学者数								
	平成28年度			平成27年度			平成26年度		
	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比
第1学年	690	2.7%	45.0%	746	2.9%	45.3%	586	2.2%	40.0%
第2学年	320	1.3%	20.9%	356	1.4%	21.6%	320	1.2%	21.8%
第3学年	214	0.8%	14.0%	235	0.9%	14.3%	130	0.5%	8.9%
第4学年	70	6.5%	4.6%	45	3.8%	2.7%	11	2.1%	0.8%
単位制	240	1.0%	15.6%	266	1.0%	16.1%	418	1.5%	28.5%

3 中途退学理由（8項目の主たる理由から選び回答）

順位	中途退学理由					
	平成28年度		平成27年度		平成26年度	
①	学校生活・学業不適応	31.6%	進路変更	34.7%	進路変更	55.8%
②	その他の理由	27.3%	学校生活・学業不適応	32.3%	学校生活・学業不適応	27.4%
③	進路変更	26.2%	その他の理由	13.9%	家庭の事情	4.6%
④	病気がけが死亡	4.7%	病気がけが死亡	5.6%	学業不振	3.8%
⑤	家庭の事情	4.2%	問題行動等	5.5%	病気がけが死亡	3.8%
⑥	学業不振	3.4%	家庭の事情	4.4%	問題行動等	2.9%
⑦	問題行動等	1.9%	学業不振	3.3%	その他の理由	1.2%
⑧	経済的理由	0.8%	経済的理由	0.3%	経済的理由	0.5%

※「その他の理由」とは、理由が不明なもの、理由が複合していて分別不可能なもの